

# 施策目標に関する中長期的な目標と成果指標(24年度実績評価用)

## 政策目標10 科学技術の戦略的重点化

施策目標(テーマ)	達成目標	主な成果指標(アウトカム)／活動指標(アウトプット)
<p><b>6 宇宙・航空分野の研究・開発・利用の推進</b></p>	<p>1 測位、通信等の利用ニーズを踏まえた衛星システムの技術実証が行われ、衛星通信技術の基盤が確立される。</p>	<p>【成果指標(アウトカム)】【活動指標(アウトプット)】                      ① 測位、通信等の利用ニーズを踏まえた衛星システムの開発・運用の進捗状況(23年度実績:当初計画どおりに進捗した。/目標:24年度)                      ・衛星測位システムの構築に不可欠な衛星測位技術の高度化を実現する。                      ・災害対策、デジタルデバイス解消、衛星インターネット等の技術実証を継続し、衛星利用を一層促進する。                      ・研究開発の成果を最大限活用し、より広く社会・経済へ還元する。)</p>
<p>【担当課】 研究開発局 宇宙開発利用課</p>	<p>2 基幹輸送系の維持、多様な輸送手段の確保、更なる信頼性の向上、及び将来輸送系に必要な技術基盤が確立される。</p>	<p>【活動指標(アウトプット)】                      ① 我が国の基幹ロケットであるH-IIA及びH-II Bロケットの各年度ごとの打上げ成功率(23年度実績:100%/目標:毎年度100%)                      ② 固体ロケットシステムの維持・発展に向けた進捗状況(23年度実績:当初計画どおり進捗した。/目標:24年度・小型衛星の打ち上げに柔軟かつ効率的に対応できる、低コストかつ革新的な運用性を有する次期固体ロケットの研究開発を行う。)</p>
<p>【施策の概要】 平成20年5月に成立した宇宙基本法を踏まえ、国民生活の向上、産業の振興、人類社会の発展、国際協力等に資する宇宙分野の研究開発を推進するとともに、航空科学技術に係る先端的・基盤的研究を行う。</p>	<p>3 宇宙科学研究や宇宙探査の分野において、科学衛星の開発・運用により、意義の大きな成果を挙げ、世界的な研究拠点となる。</p>	<p>【成果指標(アウトカム)】【活動指標(アウトプット)】                      ① 宇宙科学研究や宇宙探査のための衛星の開発・運用の進捗状況(23年度実績:当初計画どおり進捗した。/目標:24年度・宇宙科学研究に必要な観測データを取得し、世界一級の研究成果の創出及びこれからを担う新しい学問分野の開拓に貢献する。)</p>
	<p>4 国際宇宙ステーション(ISS)計画等の国際協力に参加し、国際約束を果たすと共に、有人宇宙技術や宇宙環境の利用技術の獲得を図る。また、アジア太平洋地域宇宙機関会議(APRSAF)等を通じた国際協力・交流により、諸外国との協力関係を強固にするるとともに、世界的な共通課題への対応を図る。</p>	<p>【活動指標(アウトプット)】                      ① JAXAが行う宇宙ステーション補給ミッションの実績(累計)(23年度実績:2/目標:27年度・7)                      ② 国際的な協調を踏まえた、日本実験棟「きぼう」等の開発、運用の進捗状況(23年度実績:当初計画どおり進捗した。/目標:24年度・有人宇宙技術及び宇宙環境利用技術をはじめとする広範な技術の高度化の促進及び国際協力の推進を目的として、日本実験棟「きぼう」の軌道上実証と運用及び宇宙飛行士の搭乗を安全・確実に実施するとともに、将来有人宇宙活動を行う上で必要となる技術を実証し、その蓄積を進める。)                      ③ 文部科学省及びJAXAが主催するアジア太平洋地域宇宙機関会議(APRSAF)を開催した実績(23年度実績:1回/目標:毎年度・1回)</p>
	<p>5 社会からの要請に応える研究開発を行うとともに、次世代を切り開く先進技術を開発することにより、航空科学技術が我が国の社会基盤を支える技術となる。</p>	<p>【活動指標(アウトプット)】                      ① 国産小型旅客機及び環境適合型エンジンの開発に貢献する技術開発の進捗状況(23年度実績:当初計画どおり進捗した。/目標:24年度・国産旅客機高性能化技術の研究開発を継続し、複合材的適用率向上、低騒音化を可能とする技術等の高度化差別化技術確立する。クリーンエンジン技術の研究開発を継続し、低CO2化、低Nox化、低騒音化を実現する先進エンジン要素技術確立する。)</p>
	<p>6 宇宙・航空分野の研究・開発・利用の推進の意義やその成果について国民・社会からの理解が更に深まる。</p>	<p>【活動指標(アウトプット)】                      ① JAXAIにおける教育活動及び人材の交流の取組み状況                      1 小中高校におけるJAXAとの連携モデル校の状況(23年度実績:98ブロック20拠点/目標:24年度・全国9ブロック※に1拠点)                      2 JAXAとの連携校の数(校)(23年度実績:40校/目標:24年度・中期目標期間中に50校以上)                      3 JAXAが教員研修・教員養成を実施した人数(人)(23年度実績:3,379人/目標:毎年度・500人/年以上)                      4 JAXAとの連携地域拠点の数(23年度実績:9ブロック20拠点/目標:24年度・中期目標期間中に全国9ブロックに1拠点以上)                      5 JAXAIによる宇宙教育指導者の累計育成人数(人)(23年度実績:2,294人/目標:24年度・平成20年度からの累計が1,000人以上)                      6 JAXAIにおいて人材交流を行った数(人)(23年度実績:846人/目標:毎年度・500人/件以上)                      ※全国9ブロック:北海道、東北、関東、北陸・信越、東海、近畿、中国、四国、九州・沖縄</p>
	<p>7 宇宙・航空分野の研究・開発・利用における産業界、関係機関及び大学との連携・協力を強化される。</p>	<p>② JAXAIにおける情報開示・広報・普及の取組み状況                      1 JAXAIによる査読付論文の発表数(件)(22年度実績:427件/目標:毎年度・350件/年以上)                      2 JAXAのWebサイトへのアクセス数(件/月)(22年度実績:3125万件/目標:毎年度・800万件/月以上)                      3 タウンミーティングの開催回数累計(回)(22年度実績:37回/目標:24年度・平成2050回)                      4 博物館、科学館や学校等と連携した講演実施回数(回)(22年度実績:675回/目標:毎年度・400回以上)</p>
	<p>7 宇宙・航空分野の研究・開発・利用における産業界、関係機関及び大学との連携・協力を強化される。</p>	<p>【活動指標(アウトプット)】                      ① 宇宙・航空分野の研究・開発・利用における産業界、関係機関及び大学との連携・協力の取組み状況                      1 連携協力協定等の締結数(23年度実績:20件/目標:毎年度・中期目標期間中に15件以上)                      2 大学・企業等との共同研究の件数(件)(23年度実績:626件/目標:24年度・中期目標期間の期末までに500件以上)                      3 技術移転(ライセンス供与)契約件数(件)(23年度実績:159件/目標:24年度・50件以上)                      4 施設・設備供用件数(件)(23年度実績:89件/目標:24年度・50件以上)</p>

達成手段

達成手段 (事業・税制措置・諸会議等)	23年度 当初予算額 (千円)	23年度 補正予算額 (千円)	24年度 当初予算額 (千円)	達成手段の概要	行政事業 レビュー シート 番号	関連する 指標	担当課
国際宇宙ステーション開発に必要な経費	30,008,941	-	34,148,948	有人宇宙技術をはじめとする広範な技術の高度化の促進、経済社会基盤の拡充、新たな科学的知見の獲得、及び国際協力の推進を目的として、国際宇宙基地協力協定に基づき、国際宇宙ステーション(ISS)／日本実験棟「きぼう」の運用・利用を確実に実施する。また、宇宙ステーション補給機(HTV)の開発及び運用を着実に実施する。注)日本が得ているISS/「きぼう」利用の権利(リソース)を使う科学研究等の事業は運営費交付金で実施している。	0302	4-①～ ②	研究開発局宇宙開発利用課
宇宙利用促進の調整に必要な経費	444,551	-	427,847	本事業は、宇宙開発戦略本部の方針に基づき、宇宙利用を促進するためのシステム開発等について、大学や民間企業等から幅広く公募し、優れた取り組みを外部有識者による審査を経て選定し、採択機関との委託契約にもとづき、事業を実施するもの。 平成23年度は、平成22年度からの継続課題として、①利用実証プログラム、②技術開発プログラム、③新規利用開拓プログラム、④人材育成プログラムの4プログラム、⑤準天頂衛星システム利用促進プログラム、⑥測位衛星利用プログラムに取り組んだ。なお、各採択課題の実施期間は3年間を上限としている。	0303	1-①	研究開発局宇宙開発利用課
宇宙・航空分野の戦略的研究開発・国際展開の推進	82,280	-	97,765	①我が国の宇宙開発利用及び航空科学技術を総合的・効率的に推進するため、宇宙開発利用等に係る国内外の動向調査、その他の事務を行う。 ②宇宙分野の国際会議等に積極的に参加して、我が国の意向を反映しつつ国際協力調整を行う。二国間の国際協力・調整を積極的に進め、宇宙分野の戦略的な国際展開を図る。 ③我が国の宇宙開発利用に関する国際動向・分析機能強化のため、政府職員を諸外国の宇宙政策等の中核をなす専門家のもとに派遣し、調査・協力業務に当たらせることにより、宇宙分野の国際動向・技術動向の情報収集体制を強化する。	0304	4-③	研究開発局宇宙開発利用課

(参考)関連する独立行政法人の事業

事業	23年度 当初予算額 (千円)	23年度 補正予算額 (千円)	24年度 当初予算額 (千円)	達成手段の概要	行政事業 レビュー シート 番号	関連する 指標	担当課
独立行政法人宇宙航空研究開発機構運営費交付金に必要な経費	122,426,246	(4次補正予算案) 10,228,328	119,758,445	関係府省と緊密に連携しながら以下の施策を推進する。 ○社会的ニーズの高い災害・測位衛星の開発等を通じ、新たな利用の創出を図る「衛星による宇宙利用」 ○我が国の特徴を活かした独創的かつ先端的研究を推進するとともに、未知のフロンティアである宇宙の探査に挑戦する「宇宙科学・宇宙探査」 ○国際宇宙ステーション(ISS)／日本実験棟「きぼう」を利用した「宇宙環境利用の推進」 ○宇宙空間へのアクセスを可能とする手段として、自立的な宇宙活動の根幹である「宇宙輸送システム」 ○民間では保有困難な大型・高性能の風洞施設等の試験設備を整備・供用し、航空科学技術に係る先端的・基盤的な研究開発を実施する「航空科学技術」 ○ロケットや衛星に係る信頼性向上や宇宙航空科学技術に係る基礎・基盤的な研究開発を実施する「基礎・基盤的な研究開発」	0324	1～7	研究開発局宇宙開発利用課
独立行政法人宇宙航空研究開発機構施設整備に必要な経費	7,532,277	1,104,000	7,095,963	宇宙・航空に関する打上げ、追跡・管制、試験その他の研究開発に係る施設・設備の整備・老朽化	0325	宇宙・航空分野の研究・開発・利用の推進	研究開発局宇宙開発利用課

(修正のポイント)  
特になし

# 施策目標に関する中長期的な目標と成果指標(24年度実績評価用)

## 政策目標10 科学技術の戦略的重点化

施策目標(テーマ)	達成目標	主な成果指標(アウトカム)／活動指標(アウトプット)
<p><b>6 宇宙・航空分野の研究・開発・利用の推進</b></p>	<p>1 測位、通信等の利用ニーズを踏まえた衛星システムの技術実証が行われ、衛星通信技術の基盤が確立される。</p>	<p>【成果指標(アウトカム)】【活動指標(アウトプット)】                      ① 測位、通信等の利用ニーズを踏まえた衛星システムの開発・運用の進捗状況(23年度実績:当初計画どおりに進捗した。/目標:24年度)                      ・衛星測位システムの構築に不可欠な衛星測位技術の高度化を実現する。                      ・災害対策、デジタルデバイス解消、衛星インターネット等の技術実証を継続し、衛星利用を一層促進する。                      ・研究開発の成果を最大限活用し、より広く社会・経済へ還元する。)</p>
<p>【担当課】 研究開発局 宇宙開発利用課</p>	<p>2 基幹輸送系の維持、多様な輸送手段の確保、更なる信頼性の向上、及び将来輸送系に必要な技術基盤が確立される。</p>	<p>【活動指標(アウトプット)】                      ① 我が国の基幹ロケットであるH-IIA及びH-II Bロケットの各年度ごとの打上げ成功率(23年度実績:100%/目標:毎年度100%)                      ② 固体ロケットシステムの維持・発展に向けた進捗状況(23年度実績:当初計画どおり進捗した。/目標:24年度・小型衛星の打ち上げに柔軟かつ効率的に対応できる、低コストかつ革新的な運用性を有する次期固体ロケットの研究開発を行う。)</p>
<p>【施策の概要】 平成20年5月に成立した宇宙基本法を踏まえ、国民生活の向上、産業の振興、人類社会の発展、国際協力等に資する宇宙分野の研究開発を推進するとともに、航空科学技術に係る先端的・基盤的研究を行う。</p>	<p>3 宇宙科学研究や宇宙探査の分野において、科学衛星の開発・運用により、意義の大きな成果を挙げ、世界的な研究拠点となる。</p>	<p>【成果指標(アウトカム)】【活動指標(アウトプット)】                      ① 宇宙科学研究や宇宙探査のための衛星の開発・運用の進捗状況(23年度実績:当初計画どおり進捗した。/目標:24年度・宇宙科学研究に必要な観測データを取得し、世界一級の研究成果の創出及びこれからを担う新しい学問分野の開拓に貢献する。)</p>
	<p>4 国際宇宙ステーション(ISS)計画等の国際協力に参加し、国際約束を果たすと共に、有人宇宙技術や宇宙環境の利用技術の獲得を図る。また、アジア太平洋地域宇宙機関会議(APRSAF)等を通じた国際協力・交流により、諸外国との協力関係を強固にするるとともに、世界的な共通課題への対応を図る。</p>	<p>【活動指標(アウトプット)】                      ① JAXAが行う宇宙ステーション補給ミッションの実績(累計)(23年度実績:2/目標:27年度・7)                      ② 国際的な協調を踏まえた、日本実験棟「きぼう」等の開発、運用の進捗状況(23年度実績:当初計画どおり進捗した。/目標:24年度・有人宇宙技術及び宇宙環境利用技術をはじめとする広範な技術の高度化の促進及び国際協力の推進を目的として、日本実験棟「きぼう」の軌道上実証と運用及び宇宙飛行士の搭乗を安全・確実に実施するとともに、将来有人宇宙活動を行う上で必要となる技術を実証し、その蓄積を進める。)                      ③ 文部科学省及びJAXAが主催するアジア太平洋地域宇宙機関会議(APRSAF)を開催した実績(23年度実績:1回/目標:毎年度・1回)</p>
	<p>5 社会からの要請に応える研究開発を行うとともに、次世代を切り開く先進技術を開発することにより、航空科学技術が我が国の社会基盤を支える技術となる。</p>	<p>【活動指標(アウトプット)】                      ① 国産小型旅客機及び環境適合型エンジンの開発に貢献する技術開発の進捗状況(23年度実績:当初計画どおり進捗した。/目標:24年度・国産旅客機高性能化技術の研究開発を継続し、複合材的適用率向上、低騒音化を可能とする技術等の高度化差別化技術を確認する。クリーンエンジン技術の研究開発を継続し、低CO2化、低NOx化、低騒音化を実現する先進エンジン要素技術を確認する。)</p>
	<p>6 宇宙・航空分野の研究・開発・利用の推進の意義やその成果について国民・社会からの理解が更に深まる。</p>	<p>【活動指標(アウトプット)】                      ① JAXAIにおける教育活動及び人材の交流の取組み状況                      1 小中高校におけるJAXAとの連携モデル校の状況(23年度実績:98ブロック20拠点/目標:24年度・全国9ブロック※に1拠点)                      2 JAXAとの連携校の数(校)(23年度実績:40校/目標:24年度・中期目標期間中に50校以上)                      3 JAXAが教員研修・教員養成を実施した人数(人)(23年度実績:3,379人/目標:毎年度・500人/年以上)                      4 JAXAとの連携地域拠点の数(23年度実績:9ブロック20拠点/目標:24年度・中期目標期間中に全国9ブロックに1拠点以上)                      5 JAXAIによる宇宙教育指導者の累計育成人数(人)(23年度実績:2,294人/目標:24年度・平成20年度からの累計が1,000人以上)                      6 JAXAIにおいて人材交流を行った数(人)(23年度実績:846人/目標:毎年度・500人/件以上)                      ※全国9ブロック:北海道、東北、関東、北陸・信越、東海、近畿、中国、四国、九州・沖縄</p>
	<p>7 宇宙・航空分野の研究・開発・利用における産業界、関係機関及び大学との連携・協力を強化される。</p>	<p>② JAXAIにおける情報開示・広報・普及の取組み状況                      1 JAXAIによる査読付論文の発表数(件)(22年度実績:427件/目標:毎年度・350件/年以上)                      2 JAXAのWebサイトへのアクセス数(件/月)(22年度実績:3125万件/目標:毎年度・800万件/月以上)                      3 タウンミーティングの開催回数累計(回)(22年度実績:37回/目標:24年度・平成2050回)                      4 博物館、科学館や学校等と連携した講演実施回数(回)(22年度実績:675回/目標:毎年度・400回以上)</p>
	<p>7 宇宙・航空分野の研究・開発・利用における産業界、関係機関及び大学との連携・協力を強化される。</p>	<p>【活動指標(アウトプット)】                      ① 宇宙・航空分野の研究・開発・利用における産業界、関係機関及び大学との連携・協力の取組み状況                      1 連携協力協定等の締結数(23年度実績:20件/目標:毎年度・中期目標期間中に15件以上)                      2 大学・企業等との共同研究の件数(件)(23年度実績:626件/目標:24年度・中期目標期間の期末までに500件以上)                      3 技術移転(ライセンス供与)契約件数(件)(23年度実績:159件/目標:24年度・50件以上)                      4 施設・設備供用件数(件)(23年度実績:89件/目標:24年度・50件以上)</p>

達成手段

達成手段 (事業・税制措置・諸会議等)	23年度 当初予算額 (千円)	23年度 補正予算額 (千円)	24年度 当初予算額 (千円)	達成手段の概要	行政事業 レビュー シート 番号	関連する 指標	担当課
国際宇宙ステーション開発に必要な経費	30,008,941	-	34,148,948	有人宇宙技術をはじめとする広範な技術の高度化の促進、経済社会基盤の拡充、新たな科学的知見の獲得、及び国際協力の推進を目的として、国際宇宙基地協力協定に基づき、国際宇宙ステーション(ISS)/日本実験棟「きぼう」の運用・利用を確実に実施する。また、宇宙ステーション補給機(HTV)の開発及び運用を着実に実施する。注)日本が得ているISS/「きぼう」利用の権利(リソース)を使う科学研究等の事業は運営費交付金で実施している。	0302	4-①~ ②	研究開発局宇宙開発利用課
宇宙利用促進の調整に必要な経費	444,551	-	427,847	本事業は、宇宙開発戦略本部の方針に基づき、宇宙利用を促進するためのシステム開発等について、大学や民間企業等から幅広く公募し、優れた取り組みを外部有識者による審査を経て選定し、採択機関との委託契約にもとづき、事業を実施するもの。 平成23年度は、平成22年度からの継続課題として、①利用実証プログラム、②技術開発プログラム、③新規利用開拓プログラム、④人材育成プログラムの4プログラム、⑤準天頂衛星システム利用促進プログラム、⑥測位衛星利用プログラムに取り組んだ。なお、各採択課題の実施期間は3年間を上限としている。	0303	1-①	研究開発局宇宙開発利用課
宇宙・航空分野の戦略的研究開発・国際展開の推進	82,280	-	97,765	①我が国の宇宙開発利用及び航空科学技術を総合的・効率的に推進するため、宇宙開発利用等に係る国内外の動向調査、その他の事務を行う。 ②宇宙分野の国際会議等に積極的に参加して、我が国の意向を反映しつつ国際協力調整を行う。二国間の国際協力・調整を積極的に進め、宇宙分野の戦略的な国際展開を図る。 ③我が国の宇宙開発利用に関する国際動向・分析機能強化のため、政府職員を諸外国の宇宙政策等の中核をなす専門家のもとに派遣し、調査・協力業務に当たらせることにより、宇宙分野の国際動向・技術動向の情報収集体制を強化する。	0304	4-③	研究開発局宇宙開発利用課

(参考)関連する独立行政法人の事業

事業	23年度 当初予算額 (千円)	23年度 補正予算額 (千円)	24年度 当初予算額 (千円)	達成手段の概要	行政事業 レビュー シート 番号	関連する 指標	担当課
独立行政法人宇宙航空研究開発機構運営費交付金に必要な経費	122,426,246	(4次補正予算案) 10,228,328	119,758,445	関係府省と緊密に連携しながら以下の施策を推進する。 ○社会的ニーズの高い災害・測位衛星の開発等を通じ、新たな利用の創出を図る「衛星による宇宙利用」 ○我が国の特徴を活かした独創的かつ先端的研究を推進するとともに、未知のフロンティアである宇宙の探査に挑戦する「宇宙科学・宇宙探査」 ○国際宇宙ステーション(ISS)/日本実験棟「きぼう」を利用した「宇宙環境利用の推進」 ○宇宙空間へのアクセスを可能とする手段として、自立的な宇宙活動の根幹である「宇宙輸送システム」 ○民間では保有困難な大型・高性能の風洞施設等の試験設備を整備・供用し、航空科学技術に係る先端的・基盤的な研究開発を実施する「航空科学技術」 ○ロケットや衛星に係る信頼性向上や宇宙航空科学技術に係る基礎・基盤的な研究開発を実施する「基礎・基盤的な研究開発」	0324	1~7	研究開発局宇宙開発利用課
独立行政法人宇宙航空研究開発機構施設整備に必要な経費	7,532,277	1,104,000	7,095,963	宇宙・航空に関する打上げ、追跡・管制、試験その他の研究開発に係る施設・設備の整備・老朽化	0325	宇宙・航空分野の研究・開発・利用の推進	研究開発局宇宙開発利用課

(修正のポイント)  
特になし